

第6回 これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議 議事要旨

- 1 日時 令和7年2月5日（水） 15時～16時30分
- 2 場所 神戸市総合教育センター 701号室
- 3 出席者 浅野良一会長、井上和彦委員、佐合純委員、舩木伸江委員、
野村和宏委員、ラッシラ エルッキ タピオ委員
(岡田恵実委員、佐藤春実委員はオンライン参加)
- 4 議題 意見のまとめ（案）
- 5 主なご意見

(1) 意見のまとめ（案）について

①高校授業料無償化への対応

- ・今後、高校授業料無償化が全国に広がった場合に、市立高校としてどう対応すべきか。現在、市立高校の受験倍率は比較的高く安定しているが、現場の教員が危機感を持つ必要がある。
- ・今後どうなるかわからないが、大阪府や京都府と違って、兵庫県ではもともと公立志向が強い。今後も市立高校全体として、しっかり教員を確保していくことが強みになるのではないか。
- ・例えば外国籍の住民にとって、高校授業料無償化によってどう志向が変わるのかといったことも検討すべきではないか。
- ・市立高校の価値は「育てたい人材像」にあり、特に「地域に貢献する人」を育てるための取り組みとして、実践的な授業を行っていくべきである。

②キャリア教育の充実

- ・出発点として1年生の段階で、まずは自分自身を知ろうとするような取り組みが必要となることについて追記すべきではないか。

③文理融合型探究

- ・IT分野は非常に進化が早く、「生成AI」も数年後には新しい技術ではないかもしれない。「生成AIなどを含む先端技術」のような表現が望ましい。
- ・地域課題の研究例としてスケールが大きい事例が並んでいるが、自分事として取り組めるよう、高校生にとって身近な例も記載してはどうか。
- ・「生徒の興味関心のみに終始するのではなく」という表現について、生徒の興味関心自体は大事なことであって、それを社会課題に結びつけていくということが伝わる表現がよいのではないか。

④中高一貫教育・高大連携の検討

- ・中高一貫教育校については、他の自治体の事例を参考にしながら検討するのがよいのではないか。

⑤普通科のあり方

- ・生徒が幅広い基礎知識を身につけた上で、スペシャリストの心を育てていくというバランスが大事であるように思う。
- ・兵庫県の特異な高校入試制度は、必ずしも生徒が行きたい学校に行けるような制度になっていない。入試問題についても思考力を問うような内容になっておらず、課題があると感じる。

(2) 有識者会議をふりかえって

- ・神戸市立高校は、これまで先端的な取り組みをやってこられたということを改めて感じた。
- ・学んだことがどうなるのかイメージでき、自分がどう生きていくのか考えることにつながっていくような高校になってほしい。
- ・市立高校の特色をさらに先鋭化して行ってほしい。神戸という町の魅力を生徒がもっと体験できればいいと思う。
- ・生徒が神戸に愛着を持ち、自分の子供を出身校に行かせたいと思ってもらえるような学校になってもらいたい。
- ・市立高校の力を組み合わせることで、さらにアピール力が強まるのではないかな。現場の教員の主体的な参画が大事である。
- ・決まった仕組みにはめ込んでいくのではなく、個人の価値を大事にする教育を、神戸らしくやっていこうということが結論だったように感じる。自分が暮らしている場所を大事に感じながら学ぶことが、市立高校の最大の価値になるのではないかな。
- ・市立高校の良さの1つは、フットワークが軽いことだと思う。生徒も特色を見て学校に入っており、ぜひ特色ある取り組みを続けてほしい。
- ・神戸は比較的市立高校の数が多く、各校による自由度の高い取り組みが可能である。報告書には、神戸らしさとして1次産業から先端産業との連携といったことも盛り込むことできた。また、学びが「自分自身の幸せ」につながるといったことも盛り込み、生徒目線の報告書になったと感じる。